

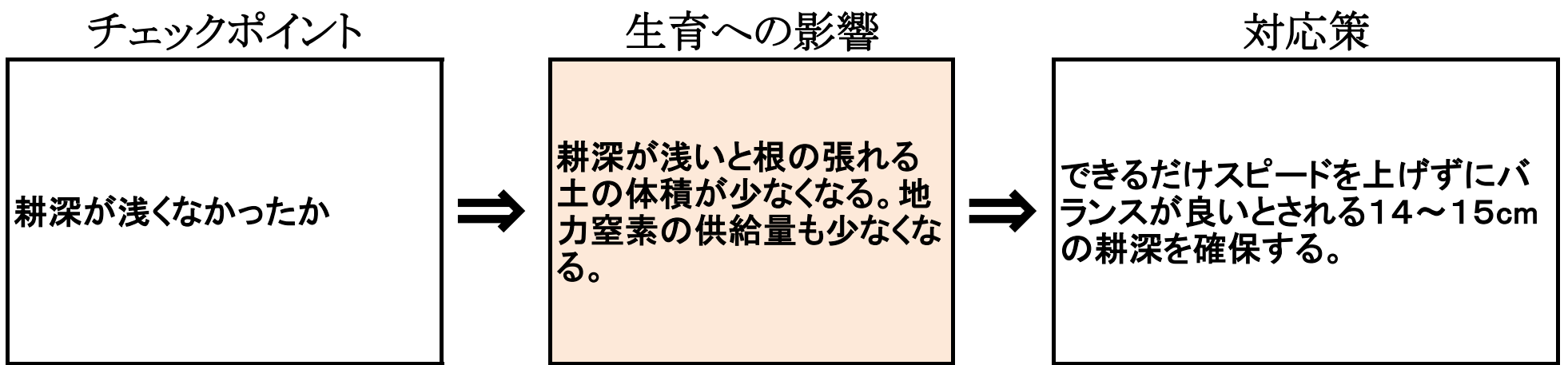
# 単収確保に向けて 《第二弾》

今年は雪も少なく、スタートから天候不順となっております。今後の天候についても、異常気象となる可能性もありますので、気象変動に負けない稲づくりが重要となります。

単収確保に向けた重点実施事項

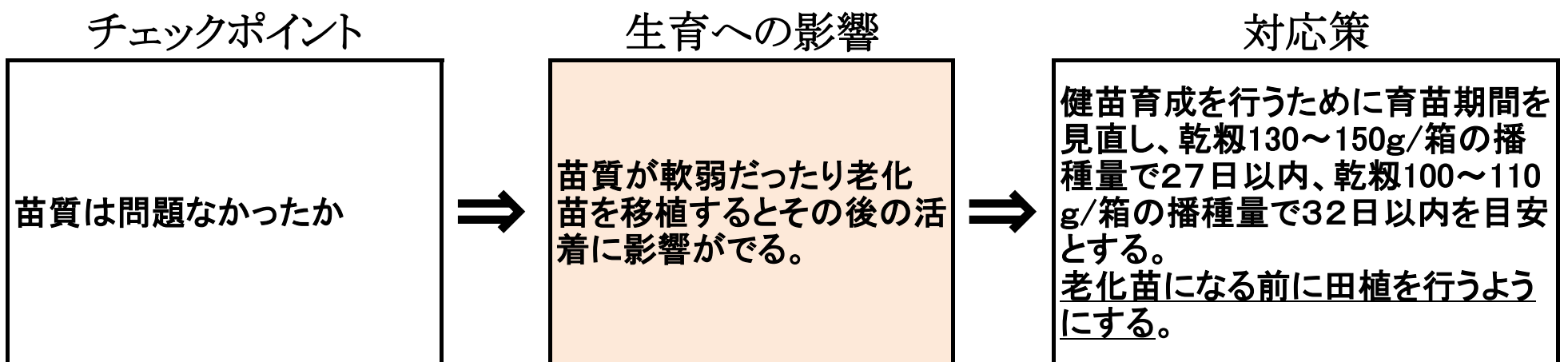
## ◎根域を確保するため耕深の確保に努めよう！

○近年、作業の省力化や能率性を求め、耕深が浅くなってきており、理想的な根域を確保できなくなっているため少なくとも14cmは確保するようにしましょう。



## ◎老化苗を移植しないように播種日・播種量を設定しよう！

- 老化苗を移植することにより活着に時間がかかりやすくなりますので移植日に合わせて播種日・播種量を設定しましょう。
- 極端な厚播を行うと、苗の老化が早まりますので、育苗期間に注意しましょう。
- 田植作業は日平均気温で14℃以上、日中最高気温20℃以上の日に移植を行いましょ。



★記入表

品 種	田植日	育苗日数	播 種	催 芽	浸 種	その他
例)ひとめぼれ	5月20日	→ (32日) →	4月17日	→ 4月16日	→ 4月5日	中苗(100g)
	月 日	→ (27日) →	月 日	→ 月 日	→ 月 日	月 日
	月 日	→ (32日) →	月 日	→ 月 日	→ 月 日	月 日

※田植日は最終予定日を入れる

チェックポイントを点検し  
該当する対応策を実施しましょう。